

# 学校改善につなげる保護者アンケートの 重点化と学校関係者評価充実の試み

札幌市立新陽小学校

## I はじめに

評価の重点化を目指して

### 1 本校における学校評価のねらい

本校では、昨年度から学校教育目標「心豊かなたくましい子どもの育成」具現化と「学学校を改善することで学校（教師・児童）が元気になっていくこと」にねらいを置き学価を進めている。

本校では、昨年度から「評価の重点化」を方針に据え、根拠をしっかりとって答えていただけるような保護者アンケートの方法を探りながら、学校改善につなげていきたいと考えてきた。本校の学校評価について紹介する。

### 2 昨年度の学校評価の結果をもとにした改善点

本校では昨年度の学校評価を受け学校評価会議、教育課程全体会等で検討した結果、主に以下に示す3点について改善を図った。

- ①基礎学力のより一層の定着と活用力の育成
- ②子どもの育ちに合わせた行事設定～運動会の見直しを中心に～
- ③総合的な学習の単元の精選～探究型の単元及び評価の重視～

## II 本校の学校評価システム

学校評価委員会と教育課程推進委員会の連携を図って

### 1 自己評価の充実を図る組織体制

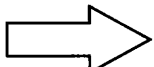
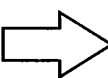
本校の自己評価は、学校評価委員会と教育課程推進委員会の二つの委員会が連携をとりながら進めている。評価委員会は教務部、研究部、指導三部の部長で構成され、評価方針立案や学校運営に関わる各部・委員会の自己評価の企画推進や学校評価会議の運営を行っている。教育課程推進委員会は総務、1～6学年の担任、栄養教諭、養護教諭で構成され教育課程に関わる自己評価の企画推進（定期的な教育課程の重点の推進状況の交流・見直し）や教育課程全体会の運営を行っている。児童の自己評価、保護者アンケートの立案については、内容に応じて両委員会が連携をとって行っている。

学校評議委員会を生かして

### 2 学校関係者評価の円滑な実施に向けた取組

本校では、学校関係者評価委員会を設置する以前は、年2回の学校評議委員会を開催し、本校の教育活動について意見をいただいていた。学校評議委員の方には普段からできるだけ学校行事等を参観していただいたり、参観懇談日に学校評議委員会を設定したりして、教育活動や児童の様子を把握していただきながら評価をしていただいていた。そこで平成20年度から学校関係者評価委員会を設置するに当たっては、これまで本校の教育活動について評価していただいていた学校評議委員に、本校の児童や教育活動に身近なPTA役員、校区の町内会役員の方を加えるような形で組織し円滑に学校関係者評価に移行できるように考えた。

### Ⅲ 学校評価の構造と年間の流れ

		自 己 評 価		学校関係者評価
月	関連する行事	学校(教職員・各部会)	児童・保護者関係	学校関係者評価委員会
4		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価の基本方針の立案、共通理解</li> <li>・自己評価書作成と面談</li> <li>・学年・学級経営案作成(ブロック交流会)</li> <li>・教育課程推進委員会(重点事項の推進状況の交流と見し)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力検査 国・算(2～6年)</li> </ul>	
5	参観懇談会 学校説明会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の重点説明と質疑応答</li> <li>・学年・学級経営方針説明と質疑応答</li> </ul>		学校関係者評価委員会
7	運動会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会に関するアンケートの集約</li> <li>・行事部による分析</li> </ul>	運動会についての <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケート</li> <li>・保護者アンケート</li> </ul>	
9		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童自己評価の分析(学年・学級)</li> <li>・教育課程重点事項中間反省(学年)</li> <li>・自己評価書見直し</li> <li>※課題の見直し</li> </ul>	前期児童自己評価	
10	土曜参観日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの集約・分析(学年・学級、研究部)</li> </ul>	学習についての保護者アンケート (参観授業を参考にしながら)	
		後期 学年・学級経営・授業づくりに生かす		
11・12		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部会自己評価アンケート実施</li> <li>※分析と見解提出</li> <li>・教育課程の見直し</li> </ul>		
1・2		<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校評価会議</li> <li>○教育課程全体会</li> <li>・自己評価まとめと面談</li> </ul>	後期児童自己評価	学校関係者評価委員会
2	参観懇談会 学校説明会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度の教育課程の重点説明と質疑応答</li> <li>・学年・学級経営の反省と質疑応答</li> </ul>		学校関係者評価委員会 学校関係者評価書の作成と公表
3				

## IV 学校評価の方法

### 1 自己評価

#### (1) 項目の設定

自己評価のスリム化  
目指して

本校では、昨年度から「評価の重点化」を方針に据え自己評価を進めてきている。現在は、児童の自己評価、各部各委員会の自己評価、教師個人の自己評価書による評価を行っている。

児童の自己評価項目については教育課程推進委員会が中心になり、教育課程の重点目標や各部、委員会からの要望を受けて、低学年 15 項目、高学年 20 項目設定している。(資料 1 参照) 以前行っていた児童自己評価とほぼ同じ項目の教師の自己評価の項目の設定は、教育課程推進委員会や学年研修の場で児童の自己評価の分析を行い、教育課程や授業の改善や課題の見直しを行っているので行っていない。

各部・各委員会(常置委員会)の自己評価は、重点目標を基にしなが、話し合いの「観点」(各部は 2～3 観点、常置委員会は 1～2 観点、特別委員会は設定しない)を設定し、観点ごとに、3 段階(A～大変よい、B～ほぼよい、C～改善の余地あり)の評価も行い、学校評価会議や教育課程全体会の客観的判断資料として活用している。

#### (2) 効率的な外部アンケートの実施

アンケート項目の重  
点化へ

先にも述べたように平成 19 年度までは、児童自己評価と教師自己評価ほぼ同じ項目の網羅的な保護者アンケートを実施していたが、項目・内容ともに多岐に渡り焦点化されていなかったため、記述する側にアンケートの意図が十分伝わらなかつたり、根拠をもった評価がしにくかつたりといった課題が残り、効果的に学校改善につなげることが課題であった。そこで、昨年度から「評価の重点化」を方針に据え、学校改善につながるような保護者アンケートの改善を目指した。

根拠をもって答えら  
れるアンケートに

平成 20 年度は、保護者が根拠をもってアンケート項目に答えられるように、児童の自己評価結果を保護者アンケートに組み入れ、それを参考にして答えていただくような形式を工夫した。この方法は、保護者と児童が対話する機会をつくと同時に学校の教育活動に改めて目を向けていただく上でも効果的であったと考える。今年度は、昨年度から時期や内容を大きく変更した「運動会」と昨年度から始めた家庭学習支援及び学習についての二つの重点に絞りアンケートを実施し、学校改善につなげたいと考えた。アンケートを実施するに当たっては、実際の授業や行事の参観に併せて実施したりやアンケート内容に関わる児童の自己評価を添付したりするなど保護者が根拠をもって評価できるように工夫した。また、アンケート項目についても「自由にご意見をお書きください」とするのではなく、「…についてどう思いますか」というように何を見てほしいのか、何について考えてほしいのかを明確にすることを心掛けた。(資料 1 参照)

#### (3) 結果の集計・分析・改善策の検討と自己評価書の作成

アンケート結果を学  
校改善に結び付ける

児童自己評価や「学習についての保護者アンケート」等、学級・学年経営にかかわる内容のもの集計については各担任、学年で分担して行っている。この集計結果をもとに学級・学年で分析し、学年・学級経営の課題の見直しや授業改善につなげている。また、教育課程にかかわることは教育課程推進委員会(月 1 回開催)で改善点等を検討し、全体会を通して次年度の教育課程に計画化している。「学習についてのアンケート」の分析からは、家庭学習の支援にかかわったの課題が明らかになり、その具体的な改善策を次年度の教育課程に盛り込むことになった。また、「運動会についてのアンケート」等、各部・委員会にかかわるものについては、アンケートの集計は学校評価委員会で行い、集計結果を基に担当する部・委員会で分析し改善案を提出し、学校評価会議で検討し次年度の教育計画に生かし

ている。「運動会についてのアンケート」の分析からは、種目内容の充実についての課題が明らかになり、今後学校評価会議で検討を行っていく予定である。自己評価書は、以上のような教育課程全体と学校評価会議等の検討結果を踏まえ、総合的に判断し作成を行っている。

## 2 学校関係者評価

### (1) 学校関係者評価委員会の構成と役割

学校関係者評価委員会は、保護者（PTA役員）、学校評議員、地域住民、本校教職員で構成されている。年間2回の学校関係者評価委員会の中で本校の自己評価が適切に行われたか、教育活動や学校運営の改善への取組が適切かどうかを検討していただき、学校関係者評価書を作成し、学校ホームページで公開していく予定である。（資料2参照）

### (2) 学校関係者評価を生かす取組

評価委員の方には、授業参観（委員会を参観懇談日に設定）や公開行事に参加していただくなど普段から学校の姿、児童の姿を肌で感じていただきながら評価を進められるように配慮している。学校関係者評価委員会の折には、本校の教育活動について説明し、感想やご意見をいただき、学校運営に生かす取組は、これまでも行ってきたが、自己評価の適切さについて評価していただくことは、難しかった。そこで今年度は、評価委員の方に普段の児童や教育活動の様子を参観していただく日を設け、その折に保護者アンケートや児童自己評価の項目を生かして作成したチェックカードを使って、実際に評価をしていただくことを予定している。部分的ではあっても実際に評価を体験していただくことで、その評価方法が適切であったかを判断しやすくなると考えたからである。評価委員の方に根拠をもって評価していただくことが、学校改善につながると考える。

チェックカードを生かして

## V 評価結果の公表

### 1 公表の方法

本校では、評価結果の公表を以下の方法で行っている。

・学校だより ・学校教育説明会での説明（5月、2月） ・学校ホームページ

### 2 公表の効果

本校では、5月と2月に設定している参観・懇談に合せて学校教育説明会（事前に評価にかかわる学校だよりを配布）を行っている。前半10分程度は教務主任がテレビ放送で説明を行い、後半は各学級担任が詳しく説明する方法を取っている。この方法は、具体的な子どもたちの成長の姿を伝えながら具体的に説明できるので、保護者の方に理解していただく上では大変効果的な方法だと考えている。また、ホームページによる公開にかかわっては、普段からホームページを定期的に更新することが、多くの方に見ていただけることにつながるのではないかと考えている。

教職員が連携して説明する

## VI 成果と課題

「学校評価の重点化」を方針に据え取り組んできた「保護者アンケートの改善」は保護者の方の教育活動への興味・関心を高めると同時に、多くの建設的な意見をいただくことにつながり、学校改善に効果的に生かすことができたのではないかとと思う。学校関係者評価については昨年度からスタートしたばかりで、評価の充実の試みも現在進行中である。今後は、前述したチェックカードの改善や学校関係者評価委員の役割分担による効率化、評価委員会による学校評価の取組の実際についても家庭や地域にも広く伝えながら学校教育への参画意識を高めていきたいと思う。

資料 1

児童自己評価 (3~6学年)集計

番号	評価項目	とても		だいたい		あまり		ぜんぜん																	
		3年	4年	5年	6年	合計	%	3年	4年	5年	6年	合計	%	3年	4年	5年	6年	合計	%						
1	楽しく学習している。	52	39	33	33	157	55%	28	19	27	33	107	38%	2	1	8	5	16	6%	0	0	2	3	5	2%
2	国語の学習に意欲的に取り組んでいる。	26	19	15	15	75	26%	37	30	36	46	149	52%	16	9	17	11	53	19%	3	0	2	2	7	2%
3	文を書くことが、好きだ。	41	21	19	19	100	35%	23	24	23	23	93	33%	9	14	20	26	69	24%	7	0	8	6	21	7%
4	算数の学習は、よくわかる。	45	42	37	28	152	53%	24	15	22	32	93	33%	8	2	10	12	32	11%	5	0	1	2	8	3%
5	テレビや新聞のニュースをよく見ている。	27	20	26	30	103	36%	21	23	24	31	99	35%	22	10	15	11	58	20%	12	5	5	2	24	8%
6	いろいろな方法で考えたり、学習したりすることが好きだ。	31	24	23	19	97	34%	36	28	24	31	119	42%	14	6	19	20	59	21%	0	0	4	3	7	2%
7	自分の考えをみんなにしっかり伝えることができる。	19	15	13	12	59	21%	38	27	27	32	124	44%	18	12	21	23	77	27%	6	5	6	7	24	8%
8	友だちや先生の話をしっかり聞いている。	43	34	35	27	139	49%	34	23	28	42	127	45%	3	1	7	5	16	6%	2	1	0	0	3	1%
9	家庭学習を進んでおこなっている。	31	19	23	18	91	32%	26	27	30	31	114	40%	18	9	13	16	56	20%	7	4	4	9	24	8%
10	ものごとをやりとげた時のよろこびを味わったことがある。	51	42	49	55	197	69%	17	11	14	11	53	19%	13	6	6	7	32	11%	1	0	1	1	3	1%
11	みんなと助け合いながらがんばることができた。	33	31	36	36	136	48%	39	19	25	33	116	41%	8	7	8	5	28	10%	2	1	1	0	4	1%
12	読書の時間(月・木)は、進んで本を読んでいる。	47	38	42	60	187	66%	26	16	18	12	72	25%	7	4	8	1	20	7%	2	0	2	1	5	2%
13	進んで物事に取り組んでいる。	35	25	19	21	100	35%	40	26	35	41	142	50%	7	7	14	9	37	13%	0	0	2	3	5	2%

(※13項目以下省略)

学習についてのアンケート

日頃より本校の教育活動にご協力、ご支援いただき本当にありがとうございます。毎年、教育活動をよりよいものにしていくため保護者アンケートを行っておりますが、今回は10月3日の上曜参観を利用して、学習に関する調査を行います。この用紙をご持参の上、下記のアンケートへのご協力をよろしくお願い致します。このアンケート調査の結果については、今後の教育活動の改善に生かしていきたいと考えております。このアンケートは特に担任が今後の授業改善につなげていく予定ですので、年組もお書きください。  
ご都合で土曜参観にご出席できなかった場合も④～⑥の設問へのご協力をよろしくお願い致します。

次の内容について、当てはまる所に○印をつけてください。判断できない項目については、○印をつけなくて空欄のままにしてください。

☆授業をご覧になって、いかがでしたか。

番号	内 容	とても	だいたい	あまり	ぜんぜん
①	今日の授業は、子どもたちにとってわかりやすかったと思いますか。				
②	子どもたちは意欲的に学習していましたか。				

③ 設問①、②でそのように考えた理由や授業をご覧になったご感想をお書きください。

④ よい授業とはどんな授業だと思いますか。ご自由にお書きください。



番号	内 容	とても	だいたい	あまり	ぜんぜん
⑤	本校で行ってきた家庭学習の支援は効果的でしたか。				

⑥ 家庭学習を身に付けさせる上で、ご家庭で工夫している点やお困りの点、学校への要望がございましたらお書きください。

## 資料2

(様式2)

## 平成21年度 自己評価及び学校関係者評価書

平成22年〇月〇日  
札幌市立新陽小学校

## 1 本年度の重点目標

自ら考え行動し、仲間とひびき合う子を育成する

## 2 本年度の経営方針

- ・児童理解に努め、心の通い合う学級・学年経営の充実
- ・学ぶ喜びが実感できる楽しい学校づくり
- ・保護者や地域と積極的に関わり、開かれた学校づくり
- ・教職員一人一人の力量が高まる学校文化の創造

## 3 自己評価及び自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	子どものよさを認め、引き出す学級・学年・学校づくりを進めることができたか。				
	職員同士共通理解を深めながら、信頼と協調の気持ちを持って教育活動を進めることができたか。				
	保護者・地域との信頼関係を築き、開かれた学校づくりを推進できたか。				
	「新陽の教育の創造」に向けて、学内外での研修を深めることができたか。				
学校関係者評価者による意見					
学習指導	60分授業を工夫して運用し、基礎学力の定着や活用力の育成を進めることができたか。				
	道徳教育において副読本等も活用し、計画的に心の学習を進めることができたか。				
	朝読書の時間や読書週間(読書祭り)等を通して、読書に対する意欲を高めることができたか。				
	地域の特長を生かした学習展開の工夫をしたか。				
学校関係者評価者による意見					
生徒指導	「子どもの様子を見守る日」の取組などを通して、基本的な生活のルールにかかわる共通理解や指導の充実を図ったか。				
	各行事が「子どもの育ち」を積み上げていく場となったか。				
	委員会・クラブ・児童活動の行事等は、子どもたちが考え、実行する組織作りや活動であったか。				
	配慮や支援を必要とする児童について、実態を把握し、全職員の理解と協力を得て、適正な就学ができるようにしたか。				
学校関係者評価者による意見					

A～十分達成した

B～ほぼ達成した

C～達成には不十分